企業名：　　　SCSK

レポート名：　「SCSK 統合報告書 2025」

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

理解できる。「2030 年　共創 IT カンパニー」を目指し、自社の経営資源を利用して、コンサルティングやシステム開発等多岐にわたる事業を通じて社会課題の解決や新たな価値創出を目指していると理解した。顧客、社会というステークホルダーとの共創を大事にする企業文化が存在していると認識できた。そして、その成長戦略の背景には、経営理念「夢ある未来を、共に創る」の下のサステナビリティ経営の推進があることを良く理解できた。また、具体的にどのようにサステナビリティ経営を推進するかという部分に関して、代表取締役社長の諮問機関である「サステナビリティ推進委員会」を設置し、サステナビリティ経営に関して監査を受ける仕組みが存在していることを理解できた。「2030 年　共創 IT カンパニー」たに向けた具体的な経営指標については、2030 年売上高 1 兆円という数値目標を設定し、その背景にある中期経営計画に関しての基本戦略の振り返り、経営基盤強化への主な取り組み、経営目標に対する実績と総括というような構造化した説明がわかりやすかった。ただ、共創という部分に関して、社会とどのように共創していくかは GX 領域、セキュリティ領域、カスタマーエクスペリエンス領域、地方創生・地域課題解決領域、ヘルスケア～セルフケア領域、ウェルスマネジメント領域といった領域への取り組みという部分に一定の根拠を確認できたが、顧客とどのように共創するかについては具体的な根拠がやや不透明だと思った。共創に関して、顧客と、社会とどのように共創していくか、同じページの中でそれぞれ根拠とともに詳しい説明があると、「2030 年　共創 IT カンパニー」という言葉により納得感が出るように思う。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

比較的理解できる。親会社である住友商事とのネットワークを活かした新たな価値創出を競争優位性の一つとして認識できた。SCSK の持つテクノロジーと、住友商事が持つ商社ビジネスのリアルな課題意識を組み合わせた実践的なアプローチを進めるというのは前述の競争優位性の説明として一定の根拠を与えるものとなっている。また、具体的事例として欧州での製造業やモビリティ領域での事業拡大を目指して、ドイツでの事業を開始したことが掲載されていたことも、住友商事のネットワークを活かした競争優位性を理解する上でわかりやすかった。ただ、住友商事とのネットワーク以外に関する競争優位性に関してはこの統合報告書から理解するのが難しかった。SCSK グループの優良な顧客基盤という部分から一定程度顧客との信頼関係構築に関する情報は得られたが、競争優位性を表すには、他社と比較しての SCSK の強みに関する説明は十分でないように感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

2の競争優位性に関して持続性は比較的高いが、絶対的ではないと認識した。住友商事とのネットワークを活かした競争優位性は短期間では他社が模倣しづらく、住友商事グループが存在する限り一定の優位性を確保できるものだと考える。その一方でこの競争優勢性が長期的な目線から持続性があるかという点に関しては疑問が残った。IT 業界では AI の発達により競争環境が変化している中で、SCSK がどのような技術力や付加価値により、他社との差別化を図っていくのかという視点からの説明があると、より、競争優位性の持続性を示す根拠になると考えた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると考えた。人材ポートフォリオ・人材育成に関して、SCSK ではコンサル・ビジネスデザイン人材、先進技術者育成研修修了者、高度 PM 人材、デジタルスキル標準教育修了者の 2023 年から 2025 年までの人数を統合報告書内で公表しており、2023 年から 2025 年にかけてその 4 種の人材全てにおいて人数の増加が確認できる。これは人的資本の価値向上を示す上で、わかりやすい根拠として評価できる。また、Well-Being 経営を推進していることを確認できたことも人的資本の価値向上が達成できるかを示す大きな指標であると認識した。SCSK では、2026 年 3 月期より、Well-Being サポーター活動というものが開始されており、Well-Being に関する議論の活発化を意図していることが示されている。専門的なスキルを身につけることだけでなく社員の働きがいを重視していることが統合報告書から読み取れたため、人的資本の価値向上を十分に達成できる仕組みが整っていると評価した。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

「2030 年　共創 IT カンパニー」に関して、共創による成長戦略というメッセージが経営陣のメッセージから一貫して読み取ることができたのが良かった。また、単純な利益創出を示すだけでなく、近年トレンドとなっている地球環境への取り組みといった ESG や Well-Being という項目に関して自社内で具体的に行なっている取り組みや具体的な目標を紹介しながら説明されている点が良かった。一方で、競争優位性の説明に関する説明が不十分であるように感じた。多種多様な IT・システム開発企業が今日で存在する中で、なぜ SCSK なのか、他社に比べて SCSK の優れている差別化要因を住友商事のネットワーク以外から読み取るのはこの統合報告書だけでは読み取るのがなかなか難しかった。ただ、全体を通して、執行役員等経営陣のメッセージが多く引用されており、会社の目指している姿が社員にも伝わっているように考えたので、SCSK の目指している姿を理解するにはわかりやすい統合報告書であったと考える。